

様々な魚類の確認

■マゴチとネズミゴチ



(Fig.1 上 ネズミゴチ 下 マゴチ)

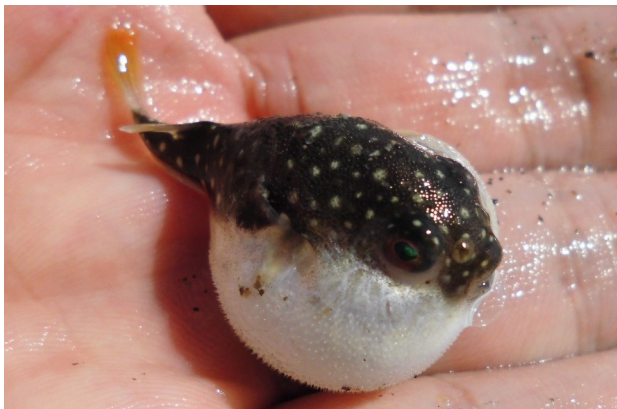
クサフグ (Fig.3), カタクチイワシ (Fig.4), ポラの稚魚など様々な魚類が見られた。

蒲生干潟ではマゴチの稚魚を数多く採集するが、今回の調査ではネズミゴチを採集した (Fig.1)。マゴチはカサゴ目、ネズミゴチはスズキ目の魚で、分類としては近い魚ではない。ネズミゴチは「メゴチ」と呼ばれることがあるが、カサゴ目に別にメゴチという魚が存在する。

未成熟のネズミゴチの雄には、背びれに斑紋がある (Fig.2)。Fig.2でもわかるように、ネズミゴチの表面は多くの粘液で覆われている。



(Fig.2 背びれの斑紋)



(Fig.3 クサフグ)



(Fig.4 カタクチイワシ)

■多くのヤマトオサガニ

日和山下の泥地でヤマトオサガニ、アシハラガニ、チゴガニを確認した。特にヤマトオサガニ (Fig.5) が数多く見られ、ヤマトオサガニの背から摂餌する様子がみられた。

(Fig.5 ヤマトオサガニの背から摂餌する様子)

